

第二回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成26年7月16日（水）午前10時～12時
2. 場 所 南区役所 3階ホール
3. 出席委員
高智穂委員、浦田委員、荒牧委員、近藤委員、飯田委員、豊田委員、松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、宮本委員、石原委員、吉村委員、田中委員（会長）
4. 配布資料
 - (1)－「会議次第」
 - (2)－「委員名簿」
 - (3)－「【資料1】南区まちづくりビジョン進捗状況表」
 - (4)－「【資料2】平成26年度まちづくり推進経費事業一覧」
 - (5)－「南区まち歩き手帖素材公募チラシ」
 - (6)－「南区の名義後援について」
 - (7)－「南区PRグッズ等貸し出しチラシ」
 - (8)－「南区だより vol.3」
5. 次第
 - (1) 開 会
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 南区長挨拶及び事務局新任職員紹介
 - (4) 会長挨拶
 - (5) これまでの懇話会について（各委員より）
 - (6) 南区まちづくりビジョンに基づく事業の進捗と南区まちづくり推進事業について
 - (7) 意見交換（テーマ：まちづくり推進事業の新たな取り組みについて）
 - (8) その他（会長より挨拶）
 - (9) 閉会

6. 議事録

会 長 まずは皆さんにこれまでの懇話会を振り返っていただきたい。今回は今年度2回目の懇話会だが、1回目は南区内の名所・施設を視察し、前回見れなかった野菜の選果場などを見学したり、歴史ある場所をいろいろと巡ったりした。その時の感想なども踏まえて、去年一年間懇話会ではこういうことを議論して面白かったとか、今年はどういうことを議論したいなどを自己紹介も兼ねて一人ずつ発言してほしい。新委員のC委員にはこれまで地域でどんなことをやってきたか、懇話会委員としてこれからどんなことを考えたいかなどをお話いただきたい。

副会長 私の分野は、「安全・安心」で、各校区のハザードマップづくりなどに協力させてもらっている。懇話会発足から一年経って、やっとひとつの基礎ができたかなという感想。今年の2回の区内視察でそれぞれの所でいろんな話を伺って、改めて南区らしいものをつくっていくためのいい資源がたくさんあることを実感している。また、ハザードマップはひとつの道具づくりで、この後が肝心。災害時要援護者や避難所づくり、共助の体制づくりの話はこれからの段階。そういった議論も含めながらこの懇話会で話し合っていきたい。

A委員 私はこの一年間懇話会に参加して、南区のまちづくり事業が着々と進みつつあると感じている。「南区を歩こう vol.2」も出だし、特に昨年11月に開催された「南区いきいきフェスタ」が印象に残っている。フェスタでは野菜販売ブースで飽田地域のPRはできたが、飽田から区役所への直接のアクセスがないので、今後はそれを考えていただきたい。それから、飽田では「天明水の会」と「南阿蘇久木野村の九州森林管理局」が連携して、“飽田の森”を育てるというユニークな事業をしていたり、「飽田地域連携協議会」というのが発足して飽田地域の幼稚園、保育園、小学校、中学校同士で情報交換やテーマに沿った活動をやっていたりするので、そのような事業も取り上げていただきたい。

B委員 これまで懇話会に出席してみて、健康まちづくりであったり、コミュニケーションづくりのまちづくりであったり、まちづくりの範囲は非常に広いと感じている。これらは自分が積極的にやらないと目に見えないと思うので、“天明の市民のつどい”などこれから先も途絶えないようにやっていきたい。行事をやるにあたって、私一人ではできないので、皆さんの協力が必要だ。懇話会では人材づくりの話が頻繁に出るが、市民のつどいにしてもこれからは趣向を変えてやらないといけないと思うので、そういっ

た新しいアイデアを持つ人材がほしいと思っている。

C委員 城南町には杉上、隈庄、豊田と3つの校区があるが、3校区とも去年は防犯協会の設立や民生委員・児童委員の選任などに忙しく、行政と協働の健康づくりやその他のまちづくり活動になかなか本腰が入っていない状態だ。人選が非常に難しく、お願いしてもなかなか引き受けてくれる人がいない。我々、自治協議会の会長も同様だ。そんな中で、地元タレントやアナウンサーを招いて健康についての講演を行うなど色々と工夫しながら、3校区とも徐々に活動をはじめているという状況だ。

D委員 日吉校区では健康まちづくりのワークショップを既に3回開催し、最後の4回目を近々やるための準備をしている。日吉校区は南北に細長く、南区の中でも面積的に小さな校区だ。幸い、交通の便や交通アクセスは良いので、バスの便をうまく利用しながら、安心・安全、それから健康まちづくりを進めていきたい。

E委員 自治協議会の会長として、ここで問題提起されたことをどうやって地区の方にお知らせするかを考えている。熊本市と合併後、それまでの支援がなくなった部分などについては地域からお叱りを受けることもあるが、地区長や委員と一緒にがんばっている。それから、健康まちづくりについては、富合校区は以前から関心を持っていて、今度のリレーシンポジウムにも、校区代表が参加する予定だ。

F委員 南区には緑や自然がたくさんあってまちを歩くとほっとするし、近くの歴史的な箇所を通ると、自分の人生を振り返って、今すべきことは何か、何を残さないといけないか、ということを考える。そういう歴史あるものや自然を次の世代に伝えていきたいし、高齢化社会に向けてそういうものを大事にした生活をしていきたいと思った。

G委員 私がこのまちづくり懇話会委員に応募した理由は、私が会長を務める校区体協などでも役員のみならず、人材もいない、年配者がせざるを得ないという状況で、これでは町の活性化につながらないと思い、どうやってその人材を育て、確保するかという点を議論したり、そういう問題を地域に持ち帰る機会にしたいと思ったからだ。ビジョンの6つの基本目標、4つの行動指針については、はっきり目標が決まっているので、お互いにどんどん知恵を出して進めたいと思っている。そして、まちづくりを進めるには、なんといっても人材が一番大事で、地域のつながり、今後の発展、絆、連帯を考えたときに、ここで私たちが議論していることをどうやって

地域に浸透させるかが大事だと思う。広報も大事だが、もっと人材の発掘・育成部分の支援が必要だ。

H委員 熊本市内に8つの商工会があるが、その半分は南区にあり、飽田・天明・富合・城南とお互いに広域連携を組んで、協力し合っている。その事務局が天明にあり、私が代表してこの会に参加している。私は、基本目標1から6までどれも大事と思うが、4の「みんなが健康で元気なまち」が一番大事だと考える。健康でなければ何もできないし、高齢者も健康で長生きすることが一番だ。そのためには、そういう啓蒙活動をする人材を育てて推進していく必要がある。そういった意味で市の保健師さん達と協力して1次予防から3次予防まで総括した健康づくりをやっていききたい。全国の市町村には長野県の佐久市や岩手県の沢内村など健康で長寿な市町村がいくつかあるが、熊本市南区も他都市から「あそこは健康だ、皆さんが長生きしている」と言われる自治体になるというような大きな目標を持ってほしい。

I委員 私は城南校区の主任児童委員をしているが、懇話会に出席するようになり、私が参加する意味はなんだろうと考えている。子育てのことについて、地域の意見を懇話会で皆さんに伝えること、懇話会で委員の皆さんからお聞きしたことや区の中でいろんなことがなされていることを地域に帰って校区の皆さんに伝えること、同じく主任児童委員をされている方たちに懇話会で議論したことを伝えていくこと、そういうことを考えながら年間委員をやってきた。子育て支援は大事だと言われているが、それを支援するための経費も活動場所もないところがある。私に何ができるかについてはまだまとまっていないが、自分の校区でできるところから、未就園児の子育て支援やもっと大きいお子さんやお母さん方の支援ができたらしんがら活動している。

J委員 私は健康と福祉分野ということで、以前から障がい者福祉について申し上げてきた。障がい者も健常者と同じような生活ができるような優しいまちづくりが必要だと思う。まず行政の職員に理解していただかないと、障がい者の方が地域で皆さんと同じように生活していくことは難しい。子育てに関しても、南区には支援学級の児童がたくさんいて、小・中学校までは、学校や保護者の皆さんが手を取り合って協力しているが、中学卒業後は相談するところも、みんなで集いあうところもないという声を聞いている。軽度の障がい者の方たちが中学卒業後に行く高校を熊本市や南区につくってほしいという強い思いがある。

K委員　　私は歴史・文化関係者区分で、城南町文化協会もやっており、「南区のまちづくりビジョン」をどのように進めるか、具現化していったらいいのかということの日頃から考えている。城南の隈庄小学校には、文化協会と連携して取り組んでいる“放課後子ども育成事業”というのがある。豊田校区の沈目地区に大蛇踊り保存会ができ、それを子どもたちに伝承するため、一昨年から豊田小学校に子ども大蛇踊りが創作舞踊として立ち上がった。杉上小学校でも、今年から学校と文化協会が連携して、クラブ活動の中で、子どもたちにいかに歴史文化を伝え、育てていくかをテーマとして事業に取り組んでいる。その現場を見ていると、非常に子どもたちが輝いているのを実感している。まちづくりの担い手は子どもを育てるしかないという考え方で、現在そういった事業に取り組んでいる。

L委員　　私は農業関係者の代表として出席している。各委員がそれぞれの分野でまちづくりに一生懸命取り組んでおられる姿が見て取れるが、私は何をしたらいいんだろうと最初は半信半疑だった。そのような中で、基本目標１に「農業と漁業を誇れるまち」が掲げてあり、昨年の南区いきいきフェスタでは、来場者におにぎりの無料配布をするなどして、南区は農業が盛んで、野菜もあれば、お米はこんなにおいしいというPRをすることができた。来場者にもそれが伝わったと思うし、皆さんにも喜んでもらったので、そういうことをやっていけばよいのかなと思った。また、自治会長さん方を筆頭にどこの地区もまちづくりに一生懸命取り組まれているので、私たちとしてはそれをサポートしていければと思う。

会　長　　この懇話会で議論したことをここで終わらせず、いかに地域におろしていくか、そして地域からいかに意見を吸い上げるかが大事だ。健康や農産物など南区には“たからもの”がいっぱいあるので、これらを活かしていきたいという意見も出た。子育てというのは全てに関わることだと教えてもらったり、健常者と障がい者がいきいきと暮らしていける南区にしたいというような話もあり、農業の話や自然・環境の話もあった。歴史・文化を子どもに伝えていくことが大事だという意見も出た。すべて懇話会の意見なのでこれは南区の意見だと言えると思う。これで、今年度の懇話会はこんな感じでやっていくということが共有できたかと思う。

それでは、議事６に移る。南区まちづくりビジョンに基づく事業の進捗と南区まちづくり推進事業について、事務局の説明をお願いする。

事務局　　（資料説明）

事務局　　こちらの進捗状況を説明したが、実際にまちづくり推進事業を取り組み

方針にあてはめていくと、取り組み方針から抜けているものもあると思う。それについて、これからの意見交換会で意見・提案をいただきたい。

会 長 資料2は去年の懇話会で決めた四つの柱に関して区役所がやってきた事業を書いている。それを基に平成26年度の事業がどれだけ進んでいるかを資料1の基本目標も見ながら皆さんに確認してもらいたい。ここに書いてあるのは行政の取り組みのみで、たとえば城南町文化協会が小学校と一緒にやっていることもまさに歴史と文化に該当する南区の成果だが、ここには載っていない。そのようなことについて情報を提供してほしい。まずはこれを見て、抜けているもの、思ったほど進んでいないと思うものについて、意見をいただいてから、その後こんなアイデアがあるという話に移っていききたい。

K委員 資料1の基本目標3の取組2について、「花や緑があふれるきれいなまちづくり」とあるが、旧城南町では総合出張所付近の花壇を植えたり、町を花でいっぱいにしたり、潤いのあるまちづくりをしていたが、合併して予算がなくなり、現在活動が停止している。城南町には竹山がたくさんあるので、「竹山・里山を活かした自然と共生した花いっぱい」はどうかと考える。せっかく自然がたくさんあるので、そういった活用の仕方もあるのではないか。

会 長 資料に記載されていることは行政がやっている事業だが、市民の方がやっている事業についても一覧化すると良いと思う。せっかく南区としてやっているのだから、アピールしないのはもったいない。

区 長 その部分については、我々も今のところ情報を持っていないので、まずはいろんな形で情報を集めて、各出張所で情報交流拠点整備ということで、いろいろな地域の取り組み、南区の取り組み、自治会の取り組み、そういったものが一様にわかるように情報交流拠点を作る予定だ。いろいろな団体の情報も必要だと考えている。

会 長 市民の方々が独自にされていることは非常に魅力的だが、これを行政がひとつひとつやるのは大変なので、そういう情報が集まるようなシステムをつくり、これだけが南区のまちづくりの成果じゃないということをもっと見える化した方がいいと思う。

区 長 花いっぱい運動については、天明でも環境保全隊や中学校の地域単位で道路の花壇を作ったりされているし、田迎地区や川尻地区とかでもやって

おられるが、区のまちづくりとして、花いっぱい運動をネットワーク化してやろう、というところまではしていない。それを全校区に広げる運動にするためにはどういう仕組みが必要か、花の苗を配ったらいいのか、プランターなどのニーズもあるのか、地域の組織づくりとか、そういったものを組み立てる必要があるのか、地域がどのようなことを希望しているのか、そういったご意見もいただければ、次年度につながっていくと思う。

Ｌ委員 天明地区では、他校区から見に来る人がいるほど花いっぱい運動が盛んだ。年に１回、集落の人たちを集めて、おにぎりやぜんざいなどを作って皆さんに振舞い、大変喜ばれているし、他の地区でもそういうことができたら良いと思う。自分たちもやりたいという自治会長さんたちの声はあるが、それが大きくなるとなかなか実施が難しいところがあって、小さい集落で少しずつ元気にやっていけば、取り組みが大きく広がっても元気が継続されると思うので、大きな声で皆さん一緒にやりましょう、ではなくて、できるところからやっていって、できるところから元気になっていけば、少しずつ少しずつ、広がっていくのではないかな。

Ｊ委員 城南校区でも中学生が種から植えた苗を校区に配布する取り組みをしている。なぜ中学生かというと、苗が循環して、また次の花を咲かせるのを見て、命の大切さ、優しさ、地域みんなが集いあって育てよう、という考え方を学ぶことができるからだ。天明中学校からは、苗の贈呈式をしていただいたこともあり、民間レベルでは横のつながりもあり、情報交換などもやっている。

会 長 必ずしも行政のバックアップがなくても、民間のつながりだけで広げていくことができることもある。それを行政が知ることも必要だ。

区 長 金銭的な支援や苗の支援については既存のものを活用されているようなので、南区としてはスローガンを掲げたり、花いっぱいコンクールをやったり、区のまちづくりとしてそういう掛け声も必要だと思うので、そういう観点から検討してみたいと思う。

会 長 ビジョンの１から３の農業や歴史・文化や自然環境については、南区はととても恵まれているし、各地域の取り組みを発表するような場があると、張り合いもあり、日頃の努力も報われ、自分たちの住んでる地域が素晴らしければ、プレゼンテーションしたいという人も多くなると思うので、ぜひそういう場の検討をしていただきたい。ビジョンの４から６の健康や安心・安全や子育てについても、新しいアイデアでも良いし、これはどうな

ってるのという意見が出てきてほしい。南区の防災まちづくりについて専門の岡副会長から意見をお伺いしたい。

副会長

南区の地域版ハザードマップづくりは5区の中で一番進んでいる。理由は、低地が多いため水害に遭いやすく、高潮害も経験しているので、危機感がすごく高いからだと思う。その反面、川口、奥古閑の方は高潮からの逃げ場がなく諦めがでている。北区では西回りバイパスのほうに登る階段を作って逃げるができるようになったという新聞記事を見たが、飽田から天明にかけての南バイパスでもこういうことをやるとひとつのきっかけになるのではないか。現在地域の町内会でハザードマップを作っているが、そういう避難経路や避難体制や逃げ場所を確保することを考えていくための良い切り替え期にきている。先ほど、障がい者の話がでたが、災害時要援護者の中には障がい児も入っている。振り返りでも話したようにハザードマップというのは地域を考えるひとつの道具で、それから地域のコミュニティのあり方、共助のあり方、福祉のあり方を考えるきっかけになってほしい。そういう中で、防災への取り組みやアイデアを発表する場やハザードマップの展示会などができればよいと思う。防災の場合は地域の災害史を必ず確認するので、南区の行動指針である「知る」という活動と「伝える」という活動を兼ねてやることもできると思う。

会 長

「南区まち歩き手帖」は防災マップとしても使える。防災マップをつくるときにまち歩きもやるが、これにその情報を書けば、1冊で楽しいこととも危険なことも両方知ることができる。この神社は洪水常習地帯にあるな、だから神様がいらっしゃるんだ、そういうことがわかるような伝え方も良いと思う。小学校の地域学習で子どもたちが作ったまち歩きマップを掲載したり、手帖の中に書き込むコンテンツの発表会ができたりすると楽しいと思う。「知る」と「伝える」という言葉が出たが、「伝える」というのは来年の事業の目的でもある。L委員の話にあったように小さいネットワークがたくさんできているので、今度はそれを南区という大きなネットワークにしていき、南区全体として一歩一歩進んでいければと思う。

副会長

まち歩き手帖の幸田御幸まち歩きコースは一周まわると何キロカロリーくらいエネルギー消費するのだろうか。そういう具体的な情報があると、もうちょっと歩いてみようとなる。また、手帖の名前は「南区を歩こう」だが、イラストにあるように、自転車で見て回るのも良い。他都市では駅の放置自転車を修理して、貸出用として利用してもらうシステムができている。南区は城南の南側の地域を除けばとても平坦で自転車に向いているし、川沿いや天明地区の海岸沿いを自転車でまわるととても気持ちが良い。

交通拠点や出張所などにリサイクルした自転車を置いて、自転車でその周辺を廻れるようにすることもやってみる価値はあると思う。さらに、1周まわると何キロカロリー消費と明記したり、乗る前に健康チェックもできると、健康づくりにも繋がる。そういうことができれば良いと思う。

会 長 歩くだけじゃなく自転車を使ってもいいし、バスに乗るのもいい。手段は何であれ、まちの魅力に気づくことができれば良いと思う。それと、若者のまちづくりに対する参加が人材育成の中でも大事だ。南区の中でもっと若者を巻き込んだまちづくりや若年層の発言ができるような場をつくってもらいたい。

K委員 城南町今地区にはふれあい交流会というのがあって、子どもたちが農業文化をテーマにした創作舞踊に参加していて、今年の「南区いきいきフェスタ」への出演を考えている。これからのまちづくりを担っていく子どもたちに、いろんな環境やまちづくりに参画する機会を与えることで次の担い手を育てていきたいと考えている。フェスタに限らず、いろんな事業に子どもたちが関わっていくことが大事だと思う。

I委員 次の担い手については私も考えていることがある。各校区に主任児童委員が未就園児を支援している子育て支援サークルというクラブがあり、前年度までは各クラブに主任児童委員部会から助成金が出ていたが、今年度からその助成金がなくなった。部会からの助成金がなくなっても自治会や社会福祉協議会からの助成金で運営できる場所もあれば、保護者から費用を徴収して運営しているところもあり、校区によって差がある。資料を見ると、いろんな地域団体の活動に支援があるようだが、子育て支援に携わる担い手確保のためにも校区へなんらかの支援があればと思う。

会 長 それぞれの校区に抱えている問題があり、校区で解決できることともっと上層の話になることとあると思うので、これはまた個別に議論していただければと思う。

今回もすごく活発に議論していただいたが、区長はどう思われるか。

区 長 南区の行動指針で言えば、まずはいろんな取り組み等を「知り」、興味を持った人達が「集い」、できることから「始め」、そしてその取り組みを“広げる”ために「伝える」というようなステップを踏んでいかなければいけない。どうやってそれを検証するのかということも考えていたが、それぞれの活動の発表の場を設定することによって、それぞれの取り組みがひとつずつ検証されていき、それが広げられることは非常に有意義だと思

う。「健康」や「防災」や花いっぱいなどの「自然」、それぞれの分野で、発表の場を展開していくということを次の段階では提案していきたい。

会 長 それではこれをもって第2回南区まちづくり懇話会を閉会する。